

社会課題とSDGsが販路を切り開く



代表取締役 青木 秀泰さま

令和5年(2023年)8月で創業46期を迎えるフィルム販売会社です。防犯や遮熱、感染防止等、様々な効果を持つフィルムを扱い、人々を守り、快適な暮らしのお手伝いをしております。



株式会社 総商

創 業：昭和51年(1976年)
 所 在 地：神奈川県川崎市高津区東野川2-29-11
 事 業 内 容：建築用ガラス・フィルム及び自動車ガラス・フィルムの販売施工、洗車場管理運営
 代表取締役：青木 秀泰
 従 業 員 数：23名

新技術・新製品・新サービス開発

社会課題

地球温暖化に伴い、日本では夏の酷暑が問題になっていきます。もはやエアコンなしでは生活できませんが、エアコン使用によるCO₂排出が地球温暖化の原因になるという悪循環が起きているのも事実です。また、昨今の社会課題として感染症対策があります。人の接触を過度に制限することなく感染を予防するための多彩な手段が求められるようになりました。

SDGs導入に向けた視点

自社のフィルムには通常の遮熱フィルムの2倍近く熱をカットできるものがあります。これを貼ることで温度上昇を防ぐというアプローチを考えていました。また、感染対策ができるフィルムは扱っているものの、フィルムは平面上にしか貼ることができないという課題の解決策を検討していました。

SDGsの活用・取組

自社の事業でも特に力を入れているカーフィルムに遮熱フィルムを採用しました。遮熱フィルムを車に貼ることによって車内温度の上昇を防ぐことができ、エアコンの空調効率が上がり燃費が向上し、結果としてCO₂削減につながります。この点を意識したPRを行いました。

また、塗料の製造・販売企業と連携し、優れた塗装技術を活用することで、より良いものができました。自社にも塗料・塗装部門を立ち上げることで、感染対策を窓のような平面だけではなく、布製品等、お客様のニーズに合った形で実施できるようになりました。

経営への効果

遮熱効果と燃費向上、CO₂削減という視点でPRした結果、大手の自動車メーカーが遮熱フィルムを採用することが決まりました。また、遮熱フィルム施工に補助金を出す自治体も出てきています。川崎市のバスへのフィルム施工にも協力したいと考えています。



塗料・塗装部門は感染症対策に加え遮熱対策の分野でも受注があり、現在は自社売上の20%を占めるまでに成長しました。

また、お客様から使用済みフィルムのリサイクルやペットボトルを活用したフィルムなど様々なSDGsにつながるアイデアをいただいております。これらの課題にも順次取り組んでいきたいです。

PR / 新たな顧客・取引層の獲得



SDGsを活用したい企業へのメッセージ



フィルムの遮熱効果を体感できます。

「一隅を照らす」という言葉があるように、各企業の事業の中にSDGsにつながる要素が眠っています。ゼロから考えるのではなく、『現在の業務をSDGsに照らし合わせ、PRできるポイントを探し出す』という気持ちで自社の事業を振り返ることで、SDGsとの接点が見つかるのではないのでしょうか。